

令和4年度農業委員会の農地利用の最適化の推進の状況その他事務の実施状況の公表

都道府県名： 長野県

農業委員会名： 東御市農業委員会

I 農業委員会の状況(令和4年4月1日現在)

※ 「I 農業委員会の現況」については、別紙様式1の内容を転記

1 農業委員会の現在の体制

任命・委嘱年月日 令和2年4月1日

任期満了年月日 令和5年3月31日

	農業委員	
	定数	実数
農業委員数	18	18
認定農業者	—	5
認定農業者に準ずる者	—	0
女性	—	1
40代以下	—	1
中立委員	—	1

	定数	実数	担当区域数
農地利用最適化推進委員	5	5	5

2 農家・農地等の概要

	経営体数
総農家数	2,093
農業経営体数	1,058

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	農業者数(人)
基幹的農業従事者数	1,132
女性	421
40代以下	108

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	経営体数(経営体)
認定農業者	100
基本構想水準到達者	32
認定新規就農者	22
農業参入法人	0
集落営農経営	0
特定農業団体	0
集落営農組織	0

※農業委員会調べ

単位:ha

	田	畑	計			
			普通畑	樹園地	牧草畑	
耕地面積	1,090	1,270				2,360

※ 直近の「耕地及び作付面積統計」に基づいて記入

II 最適化活動の実施状況

【農業委員会の実績及び点検・評価結果】

※ 「現状及び課題」及び「目標」については、別紙様式1の内容を転記

1 最適化活動の成果目標

(1) 農地の集積

①現状及び課題

現状	管内の農地面積(A)	これまでの集積面積(B)	集積率(B)/(A)	
	2,360 ha	696.13 ha	29.5%	%
課題	水田については、一定程度。既存の担い手農家により集積可能だが、畑や樹園地については、担い手が不足しており、新規就農者等の受け入れを促進していく必要がある。			

※1 農地面積は、直近の「耕地及び作付面積統計」における耕地面積を記入

※2 「農地の集積」は、経営局長通知の別表1に掲げる者への農地の集積をいう

※3 「集積面積」は、局長通知別表1に掲げる者へ集積された農地の面積をいう(以下同じ。)

②目標

農地の集積の目標年度	令和10年度	集積率	60%
今年度の新規集積面積	103.91 ha	農地面積(C)	2,360 ha
今年度末の集積面積(累計)(D)	800.04 ha	(目標)今年度末の集積率 (E)=(D)/(C)	33.9%

※ 農地の集積の目標年度及び農地集積率には、設定した目標の根拠とした目標の目標年度及び当該目標年度における農地集積率を記入

③実績

今年度の新規集積面積	7.26 ha	農地面積(F)	2,360 ha
今年度末の集積面積(累計)(G)	703.4 ha	今年度末の集積率 (H)=(G)/(F)	29.8%
目標に対する達成状況(H)/(E)	87.9%	%	

農業委員会の点検結果	旧東部地区は零細農家及び兼業農家が多く、各農家の保有農地も少ないために農業による所得確保が難しい状況であり、後継者が育たない環境である。そのため、担い手である大規模農家へ農地を集積し、農作業効率を向上させ、農家所得を安定させる必要がある。
------------	---

※1 今年度の新規集積面積は、当該年中の集積面積(フロー)を記入

※2 今年度末の集積面積(累計)は、年度末時点の集積面積(ストック)を記入

(2) 遊休農地の発生防止・解消

①現状及び課題

現状	直近の利用状況調査により判明した遊休農地の状況		
	1号遊休農地面積	うち緑区分の遊休農地面積	うち黄区分の遊休農地面積
	10.7 ha	3.9 ha	6.8 ha
土地所有者の高齢化や後継者不足が遊休化を招く最大の要因と考えられる。地域計画(人・農地プラン)に基づく集落での話し合いにより、農地の集積・集約を促進する必要がある			

②目標

ア 既存遊休農地の解消

a 緑区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積	3.9 ha
緑区分の遊休農地の解消目標面積(C)	0.78 ha

※ 緑区分の遊休農地の解消目標は、令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積の5分の1の面積を記入

b 黄区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における黄区分の遊休農地	6.8	ha
--------------------------	-----	----

黄区分の遊休農地の解消のための工程表の策定方針	黄色区分の遊休農地の解消の為に工程表の策定に向け、農地中間管理機構等との協議を実施する。
-------------------------	--

イ 新規発生遊休農地の解消

前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消目標面積	—	ha
---------------------------	---	----

③実績

ア 既存遊休農地の解消

a 緑区分の遊休農地の解消

今年度の緑区分の遊休農地の解消実績面積(D)	0.51	ha
今年度の目標に対する達成状況(D)/(C)	65.4%	%

b 黄区分の遊休農地の解消

黄区分の遊休農地の解消に向けた工程表の策定状況	黄色区分の遊休農地の解消の為に工程表策定に向け、農地中間管理機構へ所有者からの遊休農地等の貸付申出書を送付し、協議を継続している。
-------------------------	---

イ 新規発生遊休農地の解消

前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消実績面積	—	ha
---------------------------	---	----

④その他

農地の利用状況調査	調査実施時期		調査結果取りまとめ時期	
	令和4年8月～11月		令和4年8月～11月	
1号遊休農地の面積	14.7	ha	うち緑区分の遊休農地	6.7 ha
			うち黄区分の遊休農地	8.0 ha
農地の利用意向調査	調査実施時期		調査結果取りまとめ時期	
	令和4年11月～令和5年3月		令和4年11月～令和5年3月	

農業委員会の点検結果	土地所有者の高齢化や後継者不足が遊休化を招く最大の要因と考えられる。地域計画(人・農地プラン)に基づく集落での話し合いにより、農地の集積・集約を促進する必要がある
------------	---

(3)新規参入の促進

①現状及び課題

現状	平成31年度新規参入者	令和2年度新規参入者	令和3年度新規参入者
		8 経営体	4 経営体
	10.3 ha	7.1 ha	0.3 ha
課題	農地所有者の農地利用の意向把握が不十分のため、新規就農者が希望するまとまった農地の確保が課題となっている。地域計画(人・農地プラン)による話し合いや、農地利用意向調査等により、農地の利用意向の把握に努める。		

※ 現状欄は、直近3年度の新規参入した経営体数と当該経営体に集積した農地面積を記入

②目標

権利移動面積	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平均
	8.5 ha	11.5 ha	9.1 ha	9.7 ha

新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表する農地の面積(A)	1.0 ha
---	--------

※1 過去3年間の権利移動面積は、農地法(昭和27年法律第229号)第3条第1項に基づく許可及び農業経営基盤強化促進法第19条に基づき公告された農用地利用集積計画による権利移動面積(有償所有権移転(所有権に基づいて耕作の事業に供していたものに限る。))及び賃借権の設定並びに利用権の設定に限る。)を記入

※2 目標面積は、過去3年度の権利移動面積の平均の1割以上を記入

③実績

新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表した農地の面積(B)	0.9	ha
公表URL	://www.city.tomi.nagano.jp/category/nougyouinkai/index (その他の公表方法)	
目標に対する達成状況(B)/(A)	91.0%	%
(参考)新規参入者の参入状況	参入経営体数	3 経営体
	取得農地面積	18.7 ha

農業委員会の点検結果	認定農業者について、高齢化が進んでいるものの、定年後の第2の人生として農業経営に取り組む農家が増えている。さらに今後の東御市の農業の担い手として市内も含めた新規就農者の育成を進める必要がある。
------------	--

※ 参入経営体数は、農地を取得して新たに農業に参入した経営体数を記入

2 最適化活動の活動目標

(1) 推進委員等が最適化活動を行う日数目標

1人当たりの活動日数	10 日/月	最適化活動を行う農業委員の人数	18 人
		農地利用最適化推進委員の人数	5 人

(2) 活動強化月間の設定

①目標

活動強化月間の設定回数	3 回
-------------	-----

取組時期	取組項目	強化月間の内容
11月	②遊休農地の解消	農地利用意向調査により農家の農地利用意向把握を実施し、遊休農地の解消に努める。
12月	①農地の集積	人・農地プランの地域での話し合い等への参加により農地集積を促進する。
2月	①農地の集積	人・農地プランの地域での話し合い等への参加により農地集積を促進する。

※1 取組項目欄は、①農地の集積、②遊休農地の発生防止・解消、③新規参入の促進のいずれかを記入

※2 強化月間の内容欄は、活動強化月間の具体的な取組の内容を記入

②実績

活動強化月間の設定回数	3 回
-------------	-----

取組時期	取組項目	強化月間の結果
11月	②遊休農地の解消	農地利用意向調査により農家の農地利用意向把握を実施し、遊休農地の解消に向け、農地中間管理機構へ所有者からの遊休農地等の貸付申出書を送付し
12月	①農地の集積	地域計画(人・農地プラン)による地域での話し合い等への参加により農地集積を促進するための目標地区の素案について説明した。
2月	①農地の集積	地域計画(人・農地プラン)による地域での話し合い等への参加により農地集積を促進するための目標地区の素案について説明した。

※ 強化月間の結果欄は、強化月間に行った具体的な取組の内容とその結果生じた効果等の内容を記入

(3)新規参入相談会への参加

①目標

新規参入相談会への参加回数	1 回		
開催時期	7月	相談会名	長野県市町村・JA合同就農相談会
参加者数	1名	開催場所	東京都(もしくはWEB)
相談会の内容	長野県内で新たに就農を希望する方と、意欲的に新規就農を受け入れている市町村・JAとが面談できる場を設け、マッチングの機会を創出し、長野県農業の担い手を増やす事を目的として開催する。		
開催時期		相談会名	
参加者数		開催場所	
相談会の内容			

※1 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加する相談会の数を記入
(参加者数によらず、1名以上が参加する新規参入相談会ごとに1回とする)

※2 複数の新規参入相談会に参加する場合は、適宜、開催時期以下の欄を追加する

②実績

新規参入相談会への参加回数	1 回		
開催時期	7月	相談会名	長野県市町村・JA合同就農相談会
参加者数	1名	開催場所	新宿ミライナタワー (WEB参加)
相談会の内容	東御市ブースへ参加された4組の相談者にJAが現地対応、東御市がリモートで対応した。		
開催時期		相談会名	
参加者数		開催場所	
相談会の内容			

※1 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加した相談会の数を記入
(参加者数によらず、1名以上が参加した新規参入相談会ごとに1回とする)

※2 複数の新規参入相談会に参加した場合は、適宜、開催時期以下の欄を追加する(評価点欄は追加しない)

目標の達成状況の評語

目標に対して期待どおりの結果が得られた

※ 別表に基づいて成果目標及び活動目標の各目標の達成状況に対する評語を記入

【推進委員等の点検・評価結果】

評語	推進委員等の人数
目標に対し期待を大幅に上回る結果が得られた	0
目標に対し期待を上回る結果が得られた	3
目標に対して期待どおりの結果が得られた	18
目標に対して期待を(やや)下回る結果となった	2

※ 別表に基づいて成果目標及び活動目標の各目標の達成状況に対する評語ごとの該当する推進委員等の人数を記入